

わたしの聖王戦

ジハード
女性がとくいうこと

医学ジャーナリスト・医学博士

植田美津恵

連載
234

仏陀の予防医学

健康を気遣うことができるのは、平和な世である証拠だ。その意味で、日本は平和な国といえる。テレビ番組の合間に流れるコマーシャルのほとんどは健康関連であり、世界に名だたる長寿を達成できてもなお、健康を求める姿に変わりはない。

明治維新以後、医学は飛躍的に発展し、人々の生活において貢献してきた。とりわけ予防接種（ワクチン）は、乳幼児の死亡率を劇的に減少させ、平均寿命の延伸をもたらした。病気になつてから治療をするとと同時に、病気をいかに防ぐかという方法論にも熱い関心が寄せられるようになってきた。いわゆ

した梅毒の治療薬は水銀だった。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる



2500年前、佛教の祖である仏陀（ブッダ）はすでに予防や健康増進に言及していた。仏陀は、印度北部で勢力を持つ釈迦族の、ゴータマという名の王子だった。ある日老人や病人、死人を

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康を害する』、

⑥飽食『食べすぎは戒めるべき』

…。6項目いずれも、まる

いた。江戸に蔓延（まんえん）した梅毒の治療薬は水銀だけであつた。もちろん、今や水銀は体に有害であり、梅毒の治療にはまったく功を成さないことが知られている。しかし、ほんの250年前は梅毒にかかつた人々にとって水銀こそが唯一の治療薬だったのだ。

年代に伝えられ、神道とともに日本人の心の拠（よ）り所として一定の役割を果たしてきた。

仏陀の生きた古代インドでは、どのような予防医学が推進されてきたのだろうか。仏陀が説く6項目をあげてみると、以下のようにまとめることができる。

まず、①睡眠『心穏やかにして眠ることが重要』、

②洗浴『体を清潔に保つことで、内

部の寒冷病を取り除く』、

③手洗い『口の中

で水を3回回転させる』、

④楊枝（ようじ）『楊枝を使わないと、口臭や病気の原因となる』、

⑤飲酒『酒は健康